

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 7 月 31 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	水越 楓

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
新潟県妙高市
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰実習 (無雪期)
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 7 月 22 日 ~ 平成 26 年 7 月 25 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学山岳部
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
PWS のカリキュラムとして、京大笹ヶ峰ヒュッテにて笹ヶ峰実習 (無雪期) を行った。初日、夕方ごろに到着し、ヒュッテ周辺の散策をした。二日目は午前には涸沢にて沢登りをし、午後には極地研の樋口さんによるレクチャーをしていただいた。三日目は朝六時に出発し火打山登山を行い、全員登頂した。四日目は前日に行えなかったビバークについてのレクチャーを行った。
《沢登り》 ヒュッテ近くにある涸沢という沢を、学生がトップを交代しながら登った。水たまり程度の水しかない沢だったので、あまり滑ることもなく上手く登ることができた。どういうところに足をかけたら良いか、重心の移動はどうすればよいかなどを実践的に教わった。
《レクチャー》 ヒュッテ周辺の地図を用いて、地図・等高線の読み方、磁北線の書き込み、コンパスの使い方、ロープワークなどを教わった。翌日に行く火打山登山道を地図で確認し、地図とコンパスを使って行きたい方向を調べる方法を学んだ。最終日には、ビバークの際に必要なツェルトの張り方について教わった。実際に悪天候の中で張るのはなかなか難しくそうであると感じた。
《火打山登山》 朝 4:30 起き、6:00 出発で登山を開始した。基本的に 50 分登り、10 分休むというサイクルであった。個人的にはもう少し休みたいところであったが、体が冷えると体力を奪われるため、休憩時間もきちんと考えられているそうであった。予報と異なり霧が濃く、途中からは雨が降り出してしまった。11:30 に山頂到着、雨風が強いためすぐに下山を開始した。足元が岩と泥でかなり滑りやすく、帰路の方が苦労することとなった。帰路は樋口さん幸島さんから高山植物を少し教えていただいた。マイヅルソウ、ゴゼンタチバナ、ヨツバムグラ、サンカヨウ、ヤグルマソウなどが観察された。途中珍しいギンリョウソウも発見した。また、あまり登山に慣れていないため、ストックの使い方や足場の確保方法などについても教えていただいた。

写真 1 山頂にて
私のフィールドは海であるため、山における歩き方や記録の取り方などは新鮮であった。この経験をうまく自分のフィールドにフィードバックしていきたい。
6. その他 (特記事項など)
実習をサポートしてくださった市野さん、澤田さん、樋口さん、杉山さん、幸島さん、松沢さん、山岳部の外園さん、石田さんにこの場をお借りして、感謝申し上げます。